

第22回 町田市景観審議会 会議録要旨

日 時	2016年2月12日(金) 午後3時00分～午後5時00分
場 所	町田市役所2階 2-2会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt;(敬称略)</p> <p>鈴木伸治、田口敦子、名和田是彦、二井昭佳、天野真、吉川英明、佐藤正志、角田憲一、高橋清人、渥美益明、伊藤洋平（11名）</p> <p>&lt;事務局&gt; 須原都市整備担当部長、地区街づくり課職員（5名）</p>
傍聴者	1名

- 会議内容
- あいさつ
  - 会議の成立（定数確認・欠席者の報告）、会議の公開に関する報告（傍聴者報告）
  - 調査・審議事項
    - ・議題14-03号 「町田市景観計画」の評価検証について

- 配布資料
- 委員名簿
  - 次第
  - 座席表

■議事

- あいさつ
- 町田市景観審議会規則第6条第2項の規定による会議の成立に関する報告  
（全員の出席により、会議の開催について成立）
- 「町田市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定による会議の公開に関する報告  
（傍聴者なし）
- 調査・審議事項
  - ・議題14-03号 「町田市景観計画」の評価検証について

【事務局】（事務局より専門部会の調査・審議事項について資料を用いて説明）

【委員】 ただ今、事務局より、専門部会の検討した結果を説明した。

今回、資料として評価・検証結果報告書の他に、報告書の概要版を付けている。概要版と言うと、普通はA3サイズの様なものが多いかと思うが、この種の委員会、審議会の答申としては、この概要版は非常に充実した概要版になっており、これを使って学習会などをやったら良いのではないかと思う位に充実している。今後も使っていただければと思う。

今回のまとめとして、以下にある評価・検証結果報告書の第4 総括の内容を専門部会でまとめた。

アンケートの結果や、専門部会における審議結果の内容を、事務局よりかいつまんで報告した中から大体予測されるかと思うが、景観計画が策定されて以来、5年間の中で達成されたものがある一方で、改善が必要な点もあると明らかになった。その改善に向かって、「この様

に今後5年間はしていこうよ」と総括でまとめている。

まず達成された点について、総括にも幾つか箇条書きで記述した。まず、「運用されている各制度や取り組み等により、市内の景観に対して市民がおおむね好印象を抱いている」ということについて。これはやはり大事なことである。寄与度については分かりにくいところではあるが、様々な取り組みを行った結果として、好印象を抱いているということになってきているのではないかと専門部会としては判断した。

次に、「魅力的な景観を有すると感じられる地域が増加している」ということ、「雑多性やにぎわいが中心市街地らしい景観づくりに影響を与えている」こと、「景観づくり市民サポーターが実施したイベントやまち歩きなどの自主活動を実施、普及・啓発が行なえた」ことを挙げた。景観づくり市民サポーターは本当に素晴らしい取り組みだと思うが、その市民サポーターという非常に力強い景観づくりの協働のパートナーに、熱心な活動をしていただいた。その他に「届出制度によって景観の視点から、市内景観を良好に保つよう、一定の運用が図られた」ことも挙げている。景観法に基づく届出制度が、景観保護の法律上の仕組みとしてあるのだが、これが一定の運用が図られ機能し始めたということである。

他、「公共事業景観形成指針によって、公共事業における一体的な景観づくりが行われるよう、一定の運用が図られた」ことも達成された点として挙げた。行政自身が建築や開発を行うときの公共事業景観形成指針というものを定めているのはご存じの通りだが、これについても一定の運用が図られ、軌道に乗ったということになる。

その上で、当然運用からまだ5年ということもあり、改善点や反省点があり、改善が必要な点として幾つか総括に掲げた。

1つは、「魅力的と言われる景観には、緑などの自然的な要素が多く挙げられているが、住宅地や駅前などの生活空間の景観があまり評価されていない」ことについて、もっと生活空間の景観をアピールしていくべきではないかということであった。

次に、「取り組みに対する認知が十分でないことが分かった。「はじめて知った」や、「関心がなかった」、「知る機会がない」といった意見が多く見られた」こと。景観計画の策定より5年ということもあり、ある程度致し方ないと言えはその通りではあるが、認知が不十分で、「そんなの知らなかった」といった様な答えがアンケートなどにもかなり多く見られたということである。

その他に「市民の景観づくり活動への参加状況が減少傾向にあることが明らかになったほか、世代交代など市民活動の継続に関わる課題が生じている」ことについて挙げられた。これはやや憂慮すべきことで、景観づくり市民サポーターは非常に力強いのだが、この様な活動にどんどん若い人が入れる様な工夫を今後考えていかなければならないと感じる。

ほか、「生活風景宣言など、十分に活用されていない制度がある」ことについて。生活風景宣言という仕組みがあるのだが、登録件数が0件で十分に活用されていない。今後、これを活用していき、生活風景というものが町田市の景観の大きな要素なのだということを市民の共有意識にしていく必要があるのではないかということも挙げている。

また、「町田市では、建築前に行う事前協議や届出が多く、担当課による協議を行っている」と煩雑になってしまうため、住民の負担軽減を目的に窓口を一元化している。景観の届出制度でも、届出事務を所管する部署と計画を所管する部署が分かれており、届出による景観計画の一定の運用はできているものの、手続き上の課題について、情報共有がうまくできていな

い部分が見受けられる」ことについても改善すべき点として挙げられた。景観法における重要な仕組みとして届出制度があるが、町田市の場合は景観計画を持っている地区街づくり課が届出制度を運用しているわけではなく、ほかの課が窓口になって運用されている。合理性がある程度ある一方で、地区街づくり課が届出制度の窓口の担当課と一定の連携を図らなければならないというのは当然のことであり、今後もっと上手くやっていく必要があるということも挙げた。

この様な改善点が幾つかあるということに基づいて、とりわけ専門部会としては総括の中に、2つの点に分けて今後この様にしていくべきではないかといったことを提言している。

1つは、「景観づくりの取り組みに対する認知度の向上」である。取り組みがまだまだ知られていないということが、課題としても挙げられた。とりわけ生活風景宣言制度は、非常に重要な仕組みであり、実は日常生活の中にも景観があるのだということをより市民に知ってもらうことによって、市民が「それなら私にもできる」あるいは「もうやっている」と感じれば、生活風景宣言の実績などもできるのではないかとということである。

2番目に「市民・事業者・学校等と市の協働」を挙げている。市民、事業者、学校等と市の協働取り組みによって、景観施策を前進させていっていただきたいという提言である。例えば、景観づくり市民サポーター制度などを活用し、総合学習などを通じて景観学習、景観の教育などを行うこと、あるいは大学生のボランティアのアプローチなどといった形で教育分野との連携を深めていくというのが一策ではないか。学校との連携はなかなか難しいとは思いますが、難しいからやらないというのではいけないので、こういう方法をしてはどうかと専門部会としては提言させていただいた。

その他に、先ほど触れた届出制度についても、今後は役所の中での横の連携、あるいは事業者との連携ということが非常に重要であるため、関連させながらその様な主体との連携についても、書き込んでいます。

総括の部分については、以上であるが、この様な提言を、景観審議会の答申としていただければというのが、専門部会の考えである。よろしく願いいたします。

【会長】 それでは、ただいまの説明について、ご質問、ご意見ありましたらお願いしたい。

【委員】 細かいところは大体ご説明いただいた通りであると思う。私が専門部会委員として参加させていただいて、非常に印象的だったのは、通常、景観計画というものは制約をかけて守っていくという方向に行くということがもともとよくあるタイプであるが、評価・検証結果報告書の総括にもあるように、市民へ広く知ってもらうことによって活動も活発にし、まちを良くしていくという方向に重きを置いているというのは非常に特徴的でもあり、最終的にはそこが景観の大きな目的だと思うので、時間はかかると思うが、この様な方向で行くという結果になったのは非常に良かったのではないかと考えている。

【委員】 やはり市民に情報を提供することから市民が景観に対して意識を持ってくれるようになるという様に専門部会でも考え、この評価・検証結果報告書ができ上がったと思う。

【会長】 少し補足をすると、この様な形で大規模にアンケートをとり、評価検証を行い、丁寧に次をどの様な方向に進めていくかを議論している点は、町田市独自の取り組みといっても良いと思う。評価・検証結果報告書の内容を見ていただくと、まず数字の面では、幾つかの重要な指標があると思うが、この様な指標が目標値に達しなかったところもあるとは思っているのだが、その様な点も含め、丁寧に検証していると感じている。

ただ、成果指標の目標値の設定というのは、過去に町田市景観条例をつくる段階で十分に精査されなかった部分もあったと思われる。今回の評価・検証では、調査をして評価を行い、では今後どうするかという部分についても、色々と意見を交換させていただいた。成果指標については、全くそのまま目標値を再設定しても意味がないのではという様な意見も出た様に思う。そういったことも含め、今後の目標値等についても評価・検証結果報告書において述べさせていただいている。

もう1つは、景観行政としてかなり評価できる部分として、例えば公共事業景観形成指針がある。公共事業に関するガイドラインをつくり、重要度の高いものについては1個1個丁寧に景観アドバイザーが入ってデザイン協議を行い、景観形成に繋げていこうという取り組みを行なっているところはそれほど多くない。その様な点は、他の市もやっていないということで、誇るべきところだと思っても良いのではないかという意見も出た。

まだまだ運用が始まったばかりで、課題もあると思うが、本日は景観アドバイザーとして参加していただいた先生方もご出席されているので、その様な点についても後ほどご意見をいただければと思う。

あとは、それぞれ委員の方からご指摘いただいた様に、市民の参加というものに重きを置いている点については、これも町田市の景観行政の特徴であり、非常に重要であるという認識は各委員に共通していると思う。

**【委員】** 届出制度について説明をいただいたが、届出の対象になった件数や指導をした内容は評価・検証結果報告書のどこに入っているのか。また、公共事業景観形成指針についてももう少し報告が上がってこないといけないのではないか。この報告書のまとめ方について、お聞きしたい。

**【事務局】** 今のご質問について、評価・検証結果報告書の中において実践施策の調査結果として、「公共事業による景観形成」という項目で、公共事業景観形成指針の内容については触れている。届出制度については、「届出制度による景観づくり」という項目で、届出件数や指導内容などについて書かせていただいている。

**【会長】** 届出制度については、抽象的で分かりにくいところもあるが運用上の課題として、市が意図する景観配慮を事業者に行ってもらえない場合があり、事業者に対して景観計画を十分に理解してもらうことが必要というような形で記述をしている。

**【委員】** 本編の中には実践施策の調査結果が入っているが、概要版には詳細には入っていない。先ほども話したように、この概要版は景観サポーターを中心に学習会などで使えるのではないかと考えているので、概要版にもこの内容について少し入れたほうが良いのではないかというご意見だろうか。

**【委員】** 自身も評価・検証結果報告書に書かれている取り組みについては、以前に少しお手伝いしたことがある。市民の方にお知らせするためにも、むしろこの評価・検証結果報告書の概要版がすごく重要なのだと思う。細かく、こんなことをやりましたという実績については、つけてたほうが良いと思う。

おそらく、この評価・検証結果報告書の概要版をどれだけ市民が手にとられるかが重要だろう。市役所に置いておくだけなら、なかなか持って帰ってもらえないので、何か色々方策を考えないといけない。また、色々なアドバイザーが沢山関わっていらっしゃるの、そういうことを項目だけではなく、写真などでも入れたほうが良いのではないかと思う。

- 【事務局】 内容については、検討させていただきたい。  
今回の評価・検証結果について、審議会より市へ答申をいただいた後、市としてもその内容を公にしていかなければいけない。また、答申を受けて、市として今後景観づくりをこの様にしていきたいという回答を、評価・検証していただいた結果も入れ込みながら作成したいと考えている。景観計画で挙げられている成果指標や実践施策などを全部上手く回していくことは非常に難しいが、ご指摘いただいた行政と事業者との関わりについてなど、内容を整理しながら、今後できるだけオープンにしていきたいと考えている。
- 【会長】 届出制度や公共事業景観形成指針などについて、ご指摘をいただいたが、この評価・検証結果報告書の総括の中でも書かせていただいている。届出制度については、制度の抱える課題の整理や取り組みの検討が必要であり、今後改善を目指していくという方向は出てきたとしてお読みいただければと思う。
- 【委員】 概要版のつくりが立派になってしまっているの、概要版が評価・検証結果報告書本編に見える可能性があるのかもしれないと感じる。場合によっては実施施策の具体的な取り組み内容を後ろに付けるという方法もあると思うし、評価・検証結果報告書本編のどこを引用しているのか分かる様にしてもらおうというやり方もあると思う。
- 【委員】 評価・検証結果報告書の総括で、これからの課題として挙げられている「市民・事業者・学校等と市の協働」について。町田市では総合学習の時間で、中学生の職場体験をやっているが、その中で文学館通りなどのまち歩きを行なっている。その中で、良いと思う景観や、おもしろいと思う景観などについて写真に撮ってもらい、まとめてもらうという取り組みを継続している。そういった意味で、既に手がつけられている部分もあるのだが、学校は毎年担任教師が変わることもあって取り組みに差が出てしまう。その様な辺りを行政として取り組んでももらえれば学校教育としてはやれるのではないかと。  
子どもへのこういった取り組みは本当におもしろい。例えば、「文学館のあそこにポケットパークがある」といったことを言えば、すぐ言葉を覚えて使ってくれる。そのため、学校との協働ということも、もう少し大きく取り上げていいのではないかと感じる。
- 【会長】 専門部会でも、教育委員会と上手く繋いでいけないかということについては議論がされた。
- 【委員】 以前、景観賞を選定する時に、学校から見える景観が候補の1つになったことがあった。あの時、学校の校舎の建替えの仕方が景観に対して無防備だったのが非常に印象的で、もう少し学校に、景観について考えてもらいたいと感じた。やはりそれは町田市に限らず他の地域でも同じであり、学校へ食い込んでいくことの難しさも感じている。
- 【委員】 だから今度は行政の方が、アクションとして出してくるものの中にそういうことを強く出した方が良く感じている。
- 【委員】 文科省は、学校は地域に開放するという方向にかじをとるよう変わっているため、教育委員会が乗ってくれば、この評価・検証結果報告書の概要版を活用した取り組みや、小学校の授業で景観づくり市民サポーターの方が地域のことを解説するなど、地域の人たちを上手に活用していくべきではという議論が専門部会ではあったので、先程のご意見について大いに賛成である。
- 【委員】 今回の評価・検証結果を見た上で、この後どうするかという話だが、自身も景観づくり市民サポーターの方たちとお付き合いをしたことがあり、本当に素晴らしい制度だと思っている。この景観づくり市民サポーターはどうしてもある特定の世代に偏ってしまい、若い人が少な

い部分があるが、例えば世代別につくってみたらどうか。小学校、中学校との連携は大変難しいが、その様な呼びかけをし、学校で何か組織をつくるのではなくて、子どもの意思で入ってこられる様な制度として組み込めないかと感じた。

景観づくり、街づくりには、実は沢山の大学がお手伝いをしている。ただ、そこにどうしても初等教育、中等教育は入ってきにくいという部分があるので、大学はお手伝いしていただくという前提で関わってもらい、むしろ「景観で何だろう」ということを学んでいく場として、小学校高学年から中学生、高校生を対象に巻き込んでいくのはすごく良いと思う。

【事務局】

ご意見いただいたことは、非常に大事なことだと思う。また、地域によっても景観づくりやまちづくりに対する視点が異なってくる。市としても、これからどの様に実践していくべきかこれから検討に入っていくため、今、この席上で「こうする」とは言い切ることができないが、教育委員会だけではなく、地元の方とも話していく必要があるという様に考えている。

【委員】

若い世代云々ということに関して、総括のところでも世代間のたすきを上手く繋げると書いている。他の市民活動、地域活動の分野でも一緒だが、意見を受けて改めて、景観という分野で、世代によって参加の濃淡がありかつ交流が少ないのではないかと改めて気が付いた。どちらかと言えば届出制度の様な鎧を着た業務よりも、むしろ開放された、市民や地域へ出向いて、地域振興に近い活動をするというイメージで届けられれば良いと勝手に思っている。次世代間でたすきを渡すという、そのことだけではなくて、もう少し地域に渡っていけるようなスタイルになっていったらと思う。

【委員】

景観賞の実施時には広報などに載って周知がされたのだが、それ以外では何となく景観と言うものが縁遠いようなことに感じる。今回の評価・検証に当たって行われた景観に関する市民意識調査などを行って、これはどう思うか、などと聞かれれば、私はこう感じるといった様に丸をつけて答えるのだろうが、おそらく日常生活している中ではあまり考えていないという方がほとんどではないかと思う。

やはりもう少し景観について考えてもらうことや、PRというものをもう少し頻繁にやるのが良いのではと感じる。恐らくそれが無いので、この生活風景宣言や地域景観資源の登録数がゼロということに結びつくのだと思う。町田市全体の景観についてどう思うかと聞かれても、多くの人は町田市全体の景観なんて知らないだろう。自分の知っているのは自分の生活しているところ、あるいは通勤・通学のところだけである。だからやはり、ここにはこういう素晴らしい景観があるし、あなたの住んでいるところはこんな景観がありますよと言う様に各地の景観について知ってもらう機会を増やし、少し底上げを図っていかないと、なかなか市民の意識として継続していかないのではないかと思う。

【会長】

他の自治体でも、年に1回、市の広報で景観特集の枠を確保している。やはり広報などによって全世帯に行くと全然違うという。専門部会の中でも、そういったことをできないかというご意見も出ていた。

【委員】

やはり生活風景宣言などといった取り組みが少し軌道に乗っていくと景観に対する認知度も高まるのではないかと思う。

【会長】

総括に取り上げられている課題と今後取り組むべきものというものの、認知度の向上というのが入っているが、これは中心市街地活性化協議会でアンケートを実施した際に、非常に認知度が低いというようなご指摘をいただいたことなどが大きなきっかけになったような記憶があるが。

- 【委員】 景観に関する市民意識調査の結果に、問5「あなたはお住まいの地域又は市内の景観で、必要だと感じるものはありますか」という質問がある。このアンケート調査は15歳から80歳の年齢に対して質問しているが、集計結果に、15歳の子も80歳の人も、「散策が楽しめる道路」という回答を共通して最も多く挙げている。遊びに行く時も、公園に行く時も、歩くにも、ウォーキングする方も、この散策が楽しめる道路が第1位になっているのであれば、この部分を取り上げて、例えば景観賞などを1つのターゲットに絞り込んで実施してみるのはいかがでしょうか。あわせて、学校教育の一環でデザインの学校などに協力してもらえると、もう少し若い人たちの参画意識も強まるのではないかと感じた。
- 中心市街地については、中心市街地整備計画を検討しており、それに基づいて中心市街地活性化協議会は市と一体となって景観づくりも含めたまちづくりを行う予定である。
- 【会長】 答申に対しての市の回答の中でも、市民意識調査の結果を上手く活かしていただきたい。
- 【委員】 市の回答を作成する際には、もう少し分かりやすい表現を使ってはどうか。教育や小学生を取り込んだ取り組みなどについて意見が出ているので、分かりやすいような書き方や表現の仕方が必要ではないか。
- 例えば、まちの紹介ということで町田の素晴らしい景観を絵本のように見せる様なやり方もある。もう少し柔らかく書いてあると、より若い人たちが入りやすい部分が出てくるのではないかと感じた。
- 【委員】 過去に町田市でも似たようなものを作っているが、絵が中心のつくりだったように思う。あれと今回の評価・検証結果報告書の間接位のものをつくるなどができるかもしれない。
- 【会長】 それとは別だが、冊子「町田をわぎる！」は景観づくり市民サポーターの方が作成したのだったか。
- 【委員】 「町田をわぎる！」は相当レベルが高い出来だと思う。
- 【委員】 これは町田に住んでいないとできない。中に住んでいる人の発想だと思う。
- 【委員】 こういう定点的な視点は非常に印象も深くなる。そういったものが沢山出てくると、生活風景宣言も充実してくるのではないかと感じる。
- 【委員】 評価・検証結果報告書にある評価・検証の項目において、各項目の評価が曇りマークのものが多く、「何やっていたのだ」という批判を受けそうだと感じた。段階的に指標の優先順位を定めていくことも必要ではないかと感じる。
- その他、景観に関する市民意識調査において問8「あなたは下記の景観に関する取り組みが行われている事を知っていますか？」という質問があるが、知っているだけだと意味がないのではと思った。知っていて、いかに活動に参加してもらうかということが重要だと思う。そういった意味で、やはり景観づくり市民サポーターというものは非常に重要だ。若い人が活動に参加してこないのは、おそらくインセンティブがないからであって、例えば立場やお金、名誉といったインセンティブがあれば参加に繋がるのではないかとと思う。素晴らしい制度なので、例えば景観づくり市民サポーターにランキングの様なものをつくって、一番上のランキングになったら市民表彰を受けられるといったことや、大学で講演ができるといったことの様な、景観づくり市民サポーターとして、参加者の経歴に箔がつく様なことがあればもっと若い人も参加するのではと思った。
- 【会長】 景観づくり市民サポーターについては、もっと新しい人に入ってきてほしいということなど、色々な声も出ているので、そういった意味では参加することによって得られる満足感の様な

ものが分かる形にならないと、若い人は特に参加しないというご指摘、ごもっともな点はあると思う。

景観づくり市民サポーターは、毎年申し込みをかけているのであったか。

【事務局】

1期3年で活動を行っていただいている。今期は第2期である。

【会長】

今期は、来年で終わるのか。

【事務局】

そうである。

【会長】

来年度で2期目が終わるので、そのプロセスをうまく捉えて、活動内容と、参加するとこないことがあるかもしれない、ということが分かるような形で広報をすることを検討いただければと思う。

その他に、何かご意見はあるか。もしなければ今回、評価・検証結果の報告書案と概要版について審議会でお認めいただき、いくつか修正などのご指摘があったところについては調整を行った上で部会長と会長に一任いただいて審議会として市へ答申の提出をさせていただくというような流れにしたいと思う。よろしいでしょうか。

それでは、この評価検証案について、ご報告のとおり可決という形にさせていただく。

終了